

# 第3章 フローの操作と フローエディタの使い方



OUTPERFORM THE FUTURE™

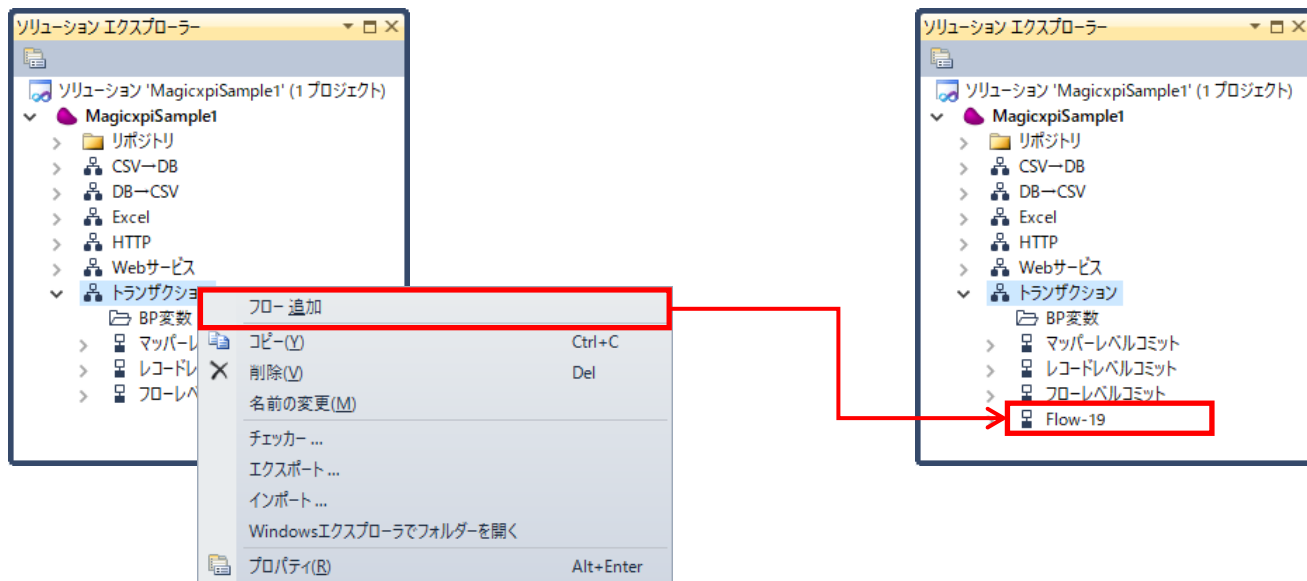
# 3.1 フローの操作



## 3.1 フローの操作

### 【① フローの追加】

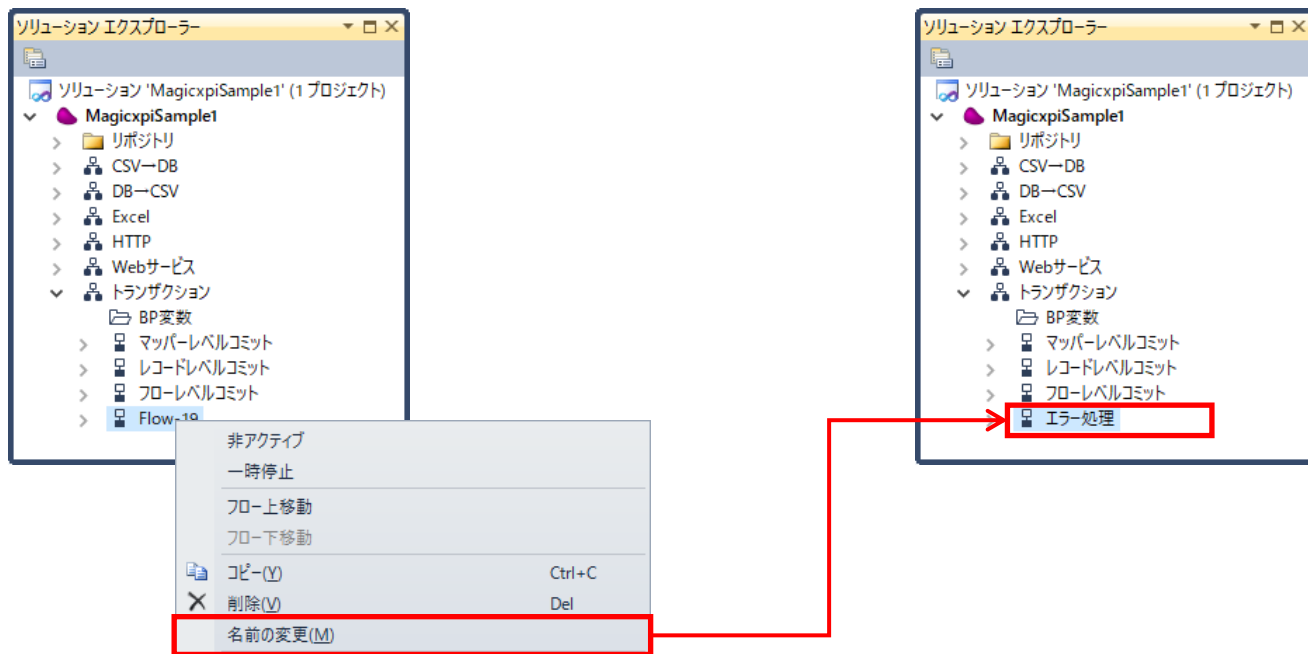
- ・ ソリューションエクスプローラペインで操作します。
- ・ ビジネスプロセスを右クリックしコンテキストメニューから「フロー追加」をクリックします。
- ・ ビジネスプロセスの最下段に新しいフローが作成されます。



## 3.1 フローの操作

### 【② フローの名前変更】

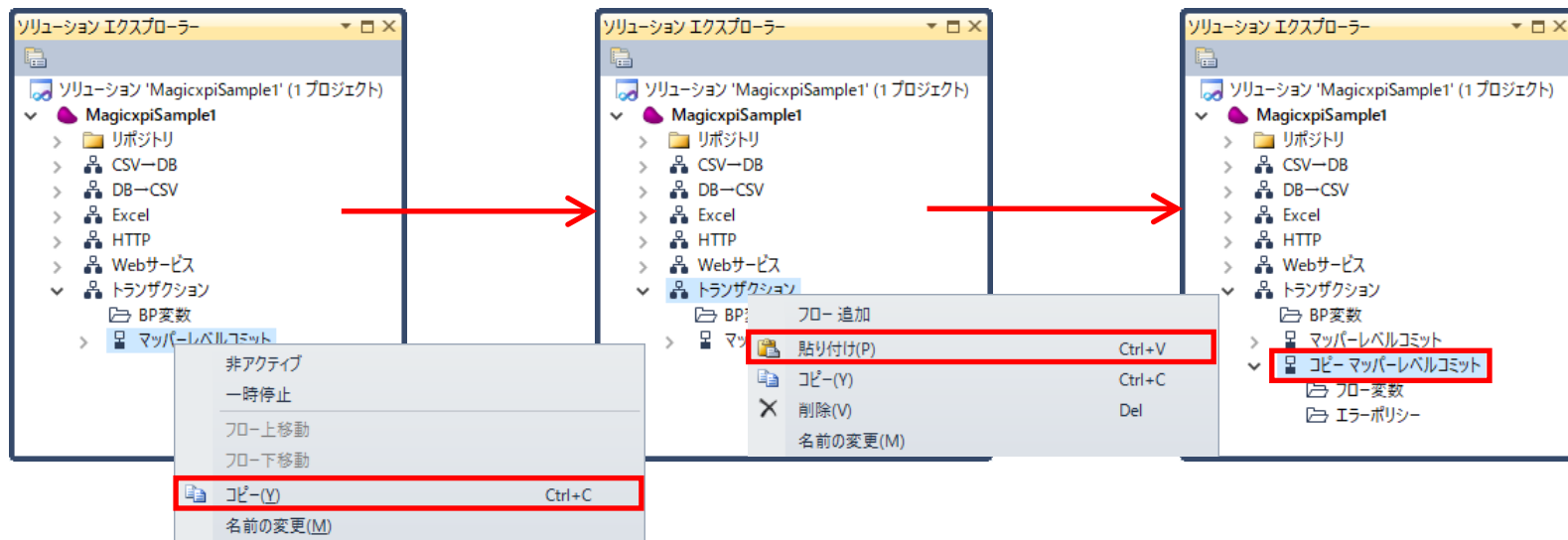
- ・ 名前を変更するフローを右クリックし、コンテキストメニューから「名前の変更」をクリックします。
- ・ 任意の名前に変更します。



## 3.1 フローの操作

### 【③ フローのコピー】

- ・ コピー元フローを右クリックし、コンテキストメニューから「コピー」をクリックします。
- ・ ビジネスプロセスを右クリックし、コンテキストメニューから「貼り付け」をクリックします。
- ・ ビジネスプロセスの最下段にフローが貼り付けられます。



## 3.2

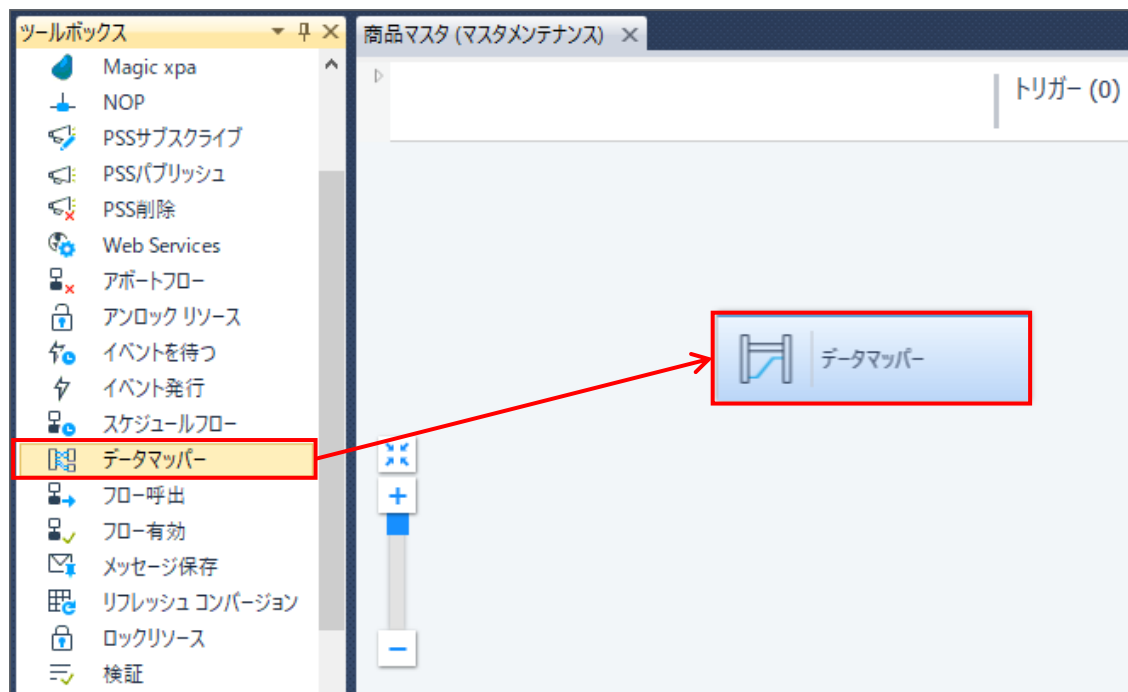
# フローエディタの 使い方



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【① ステップを貼り付ける】

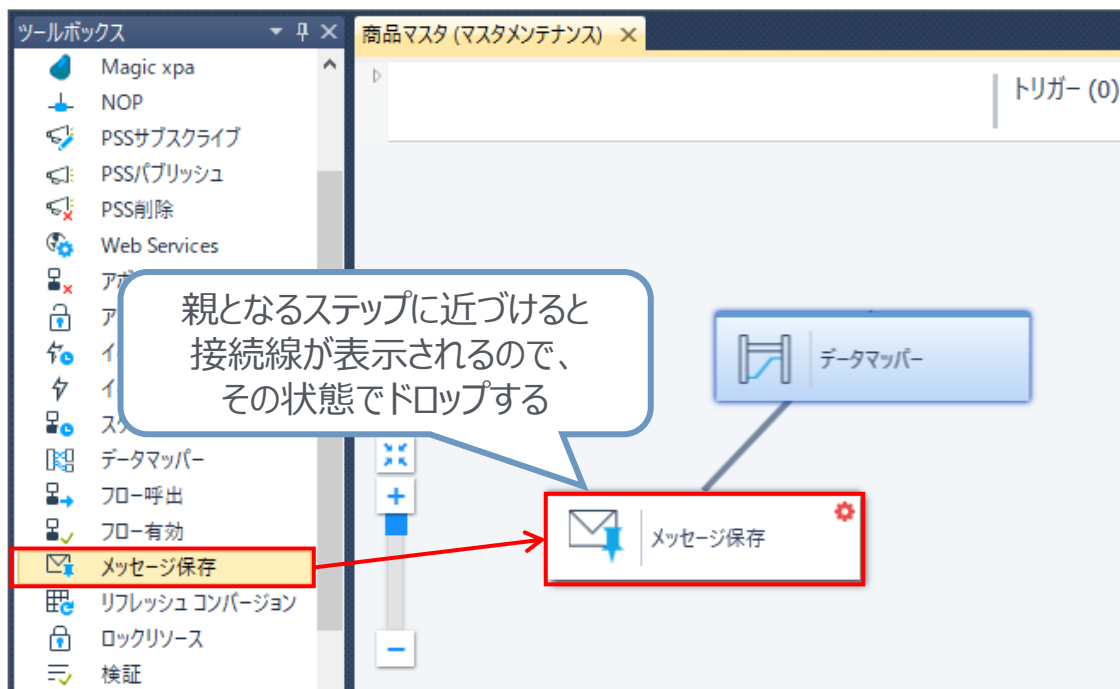
- ・ ツールボックスからフローエリアにDrag&Dropで貼り付ける



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【② 親ステップに対して子ステップを貼り付ける】

- 親となるステップの下にDrag&Dropで貼り付ける



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【③ 分岐を作成する】

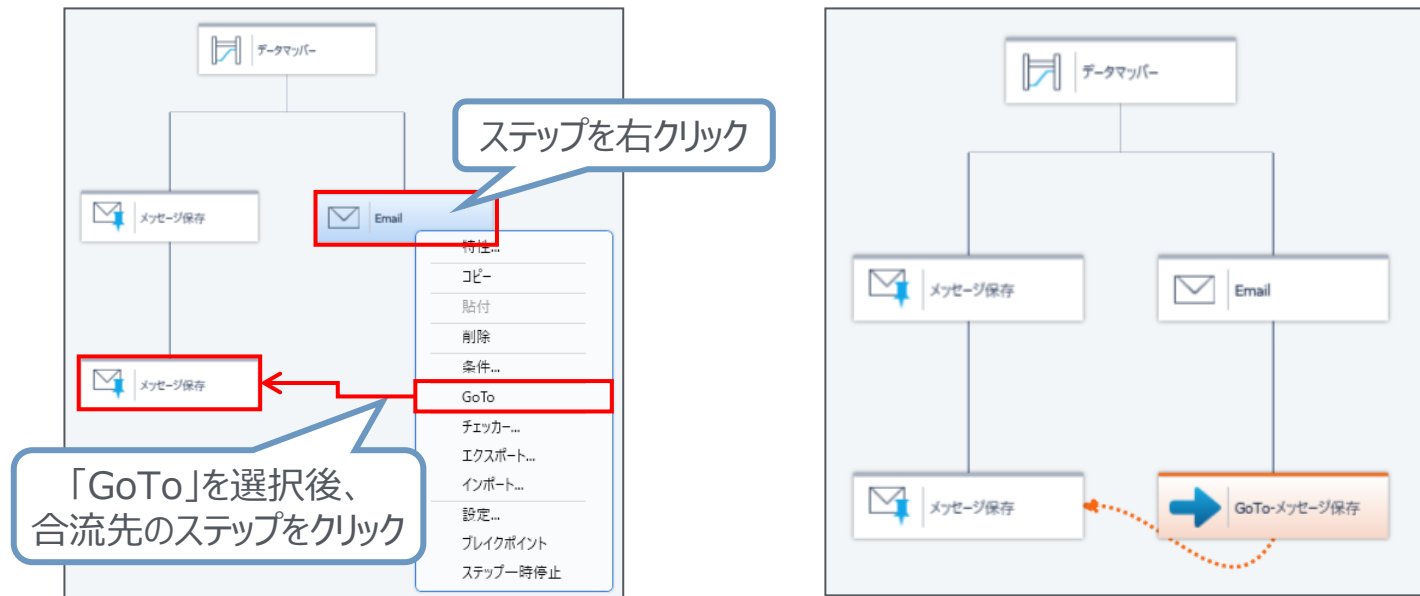
- 分岐のルートとなるステップにDrag&Dropで貼り付ける



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【④ 合流する】

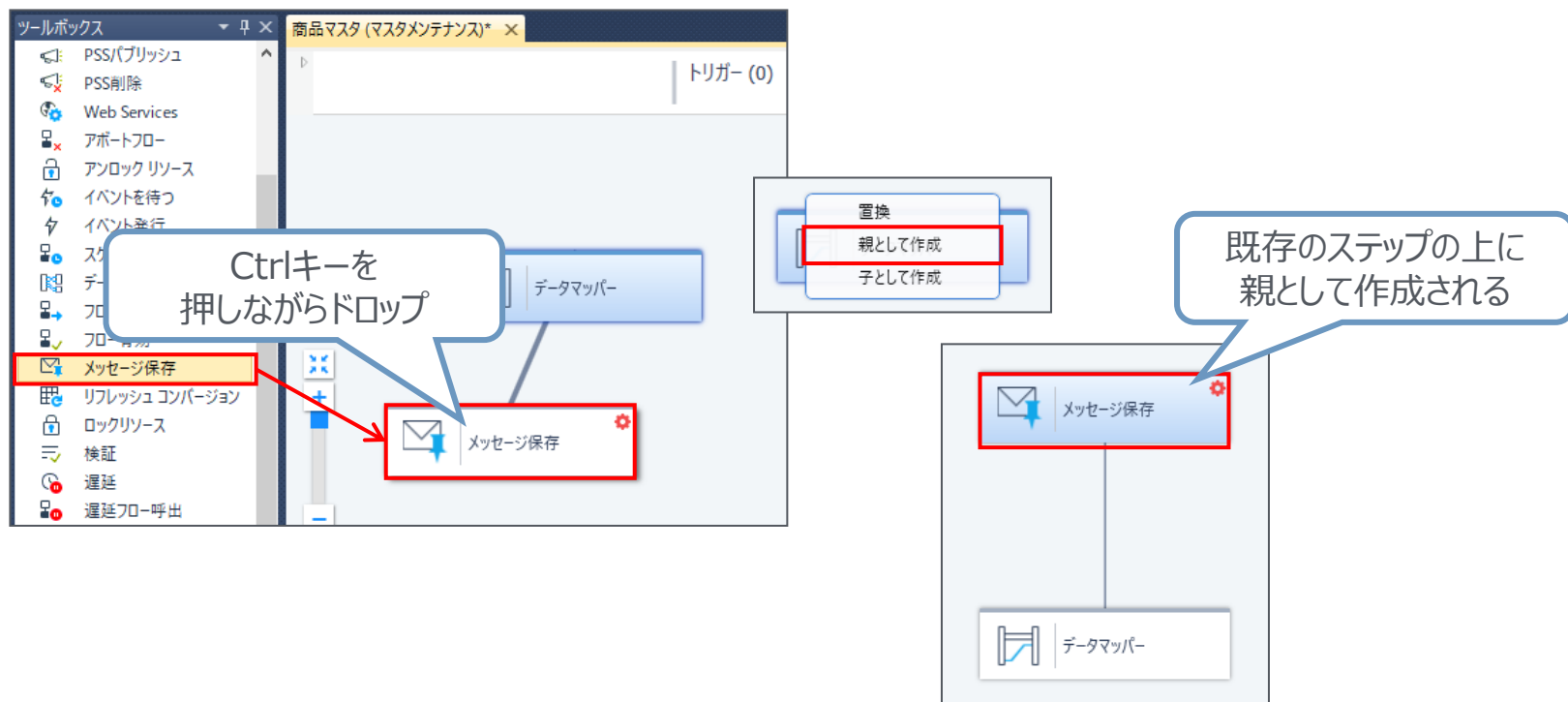
- ステップを右クリックし「GoTo」を選択後、合流先のステップをクリック



## 3.2 フローエディタの使い方

## 【⑤（後から）親ステップを作成する】

- Ctrlキーを押しながらドロップし、メニューから「親として作成」を選択する



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【⑥ ステップを置換する】

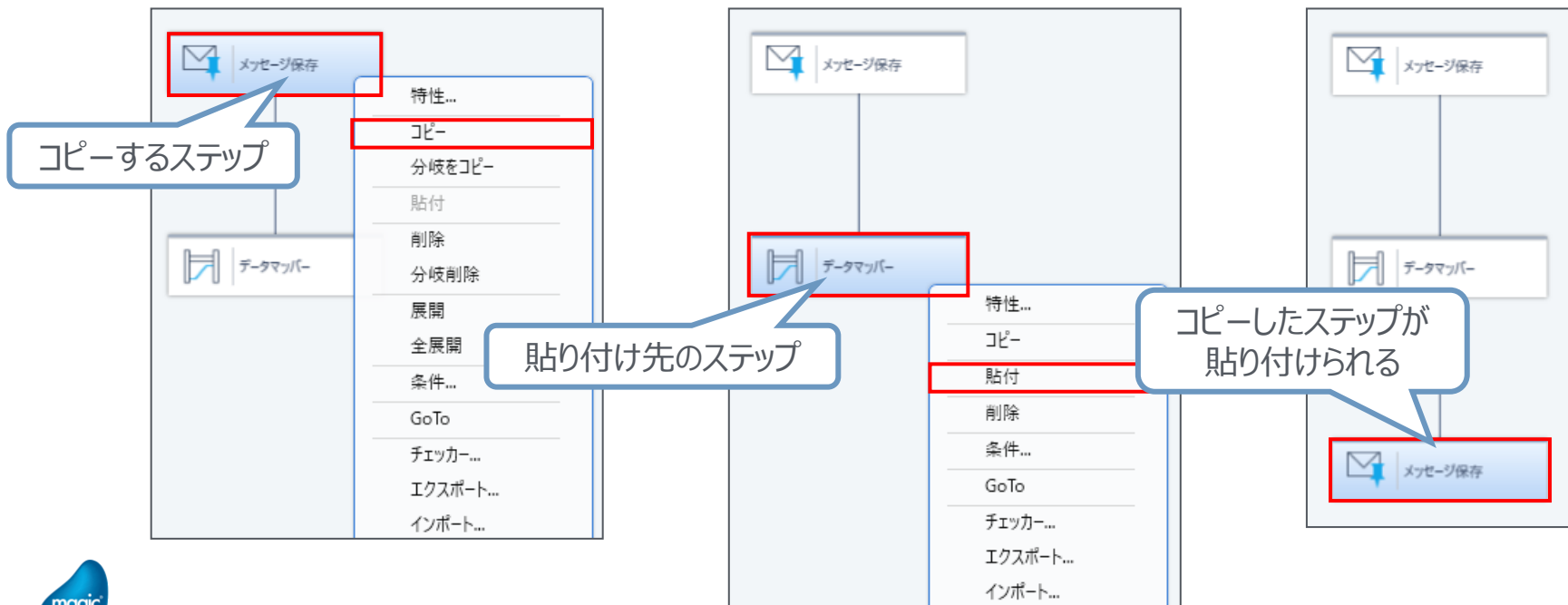
- Ctrl キーを押しながら置換したいステップにドロップし、メニューから「置換」を選択する



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【⑦ ステップをコピーし、貼り付ける】

- ・ コピーするステップを右クリックし、コンテキストメニューの「コピー」をクリックする
- ・ 貼り付け先のステップを右クリックし、コンテキストメニューの「貼付」をクリックする



## 3.2 フローエディタの使い方

### 【⑧ 分岐をコピーし、貼り付ける】

- ・ コピーする分岐のルートステップを右クリックし、コンテキストメニューの「分岐をコピー」をクリックする
- ・ 貼り付け先のステップを右クリックし、コンテキストメニューの「貼付」をクリックする  
※分岐とは、選択したステップにぶら下がるすべてのツリーのことを指す



# 3.3

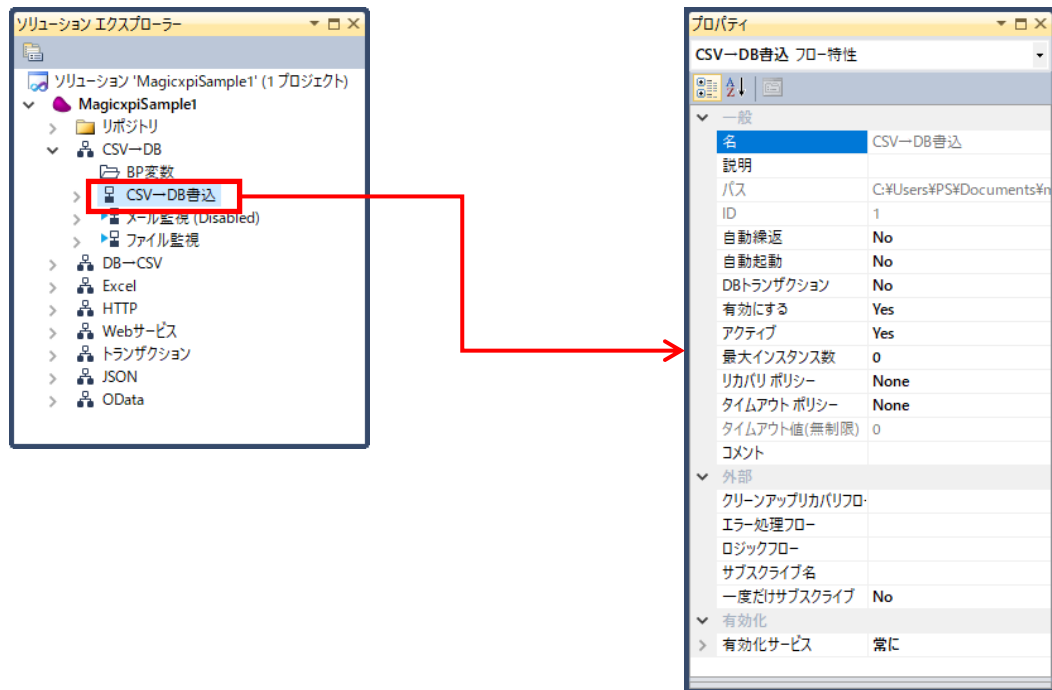
## フロー特性



## 3.3 フロー特性

### 【フロー特性】

- ソリューションエクスプローラでフローを選択すると、プロパティペインにフロー特性が表示されます。



## 3.3 フロー特性

- 主なプロパティは下記の通り。

カテゴリ	プロパティ	説明
一般	名	フローの名前。
	ID	自動生成される内部ID
	自動繰返	「Yes」に設定するとフロー完了時に再度このフローが実行され、ループ処理ができる。
	自動起動	「Yes」に設定すると、プロジェクト開始時にフローが自動的に起動する。
	DBトランザクション	フローレベルのトランザクションを有効にする
	有効にする	フローを有効にする。Noにするとフローは実行されない。
	アクティブ	フローをアクティブにする。Noにするとチェッカーやビルドの対象外となり、実行されない。
	最大インスタンス数	インスタンス（スレッド）の最大数を指定する。0 の場合は無制限。 スレッドライセンス数を超過して起動することはできない。
	リカバリポリシー	xpiサーバが異常終了したときのリカバリポリシーを設定する。 選択オプションはアボート、再起動、セーブポイント or なし
外部	クリーンアップリカバリフロー	リカバリポリシー実行前に、ここで指定したフローが実行される。
	エラー処理フロー	エラー発生時、エラー処理を行うフローを設定する。
	サブスクライブ名	PSSを使用する場合、参照するサブスクライブ名を設定する。
有効化	有効化サービス	フローをいつ有効にするか設定する。

